

## 課題

現状が続くと...

- ・地球温暖化など環境への影響
- ・埋め立て地がなくなる
- ・ごみ処理費用の増加

### さらなるごみの減量が必要

横ばい傾向を続ける家庭ごみの量を減らし、処理費用を抑える対策が必要。特に、ごみの重量の半分以上を占める紙ごみと生ごみへの取り組みが急務。

### ごみステーション問題への対応

ルールを守らないごみ出しやごみの散乱などの改善。

### 施設の確保

老朽化した清掃工場などの整備や埋め立て地の確保。



17年4月

今後の方策について、「札幌市廃棄物減量等推進審議会」へ諮問

19年3月

市民意見交換会などを経て、審議会からの答申が市に提出される

札幌市廃棄物減量等推進審議会

よしだ ふみかず  
吉田 文和会長 (北海道大学公共政策大学院教授)



2年間、地域での実態調査やたくさんの方との議論を重ねてきました。答申では、ごみ減量・リサイクルを進めるために、家庭ごみの有料化も併せて実施することを市民に提案すべきとしました。ぜひこの機会に、身近なごみの問題を真剣に考えてみてください。

## 新たな計画案を作成

答申を踏まえ、今後10年間のごみに関する新しい総合計画案を作成しました

## 「スリムシティさっぽろ計画」案

### 新たな目標

### 家庭ごみを1人1日400g以下に

29年度までに燃やせるごみを年間24万トン減らすために、家庭から出る廃棄ごみの量を1人1日当たり400g以下に減らします。

1人1日230gの減量が必要。これは、新聞1日分(朝夕刊)とほぼ同じ重さ。

### 清掃工場1カ所の廃止

燃やせるごみを年間24万トン減らし、老朽化した篠路清掃工場の建て替えを不要にします。



### 29年度には...

- ・10年間で220万トンの資源化、140万トンのごみ削減
- ・老朽化した篠路清掃工場の建て替え費用370億円が不要
- ・埋め立て地の使用年数を4年延長



昭和55年から稼働している篠路清掃工場は、老朽化が進んでいるため、部分的に改修するなどして寿命を延ばしながら、平成29年度まで使用を継続

## 意見を募集中

- ・計画案に対する皆さんからの意見を募集します
- ・地域での市民意見交換会を開催します

## 計画の完成

皆さんからの意見を踏まえ、来年3月までに計画を完成します